

16. ナラタケモドキによる温室ブドウの衰弱枯死（情報）

〔要約〕

温室ブドウの衰弱枯死は白紋羽病の他に、ナラタケモドキ菌によっても起こる。本菌に侵された根は、木質内部が黄褐色に柔らかく腐朽してキノコ臭を発する。

研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0271（内線 241）
------	-------	-----	----------------------

〔背景・ねらい〕

県南部の温室ブドウで根や主幹の地際部が腐朽して衰弱枯死する障害が発生したので、原因究明を行い対策に資する。

〔成果の概要・特徴〕

1. 罹病株の地上部は、葉の黄化、果房の生育不良を伴う樹勢の低下がみられ、重症樹では、主枝全体が衰弱枯死した（図 1）。主幹の地際部や根部では、皮層が容易に剥がれ、皮層と木質部の間に白～淡黄白色の菌糸膜がまん延し、木質部は黄褐色に柔らかく腐朽しており、キノコ臭を発した（図 2）。
2. 収穫期に罹病樹の地際部に子実体の発生がみられた（図 3）。子実体（キノコ）は束状に数十本発生し、カヤタケ型。傘は径 2.0～4.5 cm，淡褐ないし褐色。褶は乳白色で薄く、茎は乳白ないし淡褐色で径 0.4～0.7 cm、長さ 1.4～9.6 cmで鏢はなく、鏢を有するナラタケと異なった。（図 4）。以上の形態から、本菌をナラタケモドキと同定した。

以上の結果から、温室ブドウの衰弱枯死は、ナラタケモドキ菌によっても起こり、本菌に侵された根は、木質内部が黄褐色に柔らかく腐朽してキノコ臭を発することから、白紋羽病とは明らかに症状が異なる。

〔成果の活用面・留意点〕

1. 本病に対する登録薬剤はないので、軽症の場合は休眠期に枯死根を除去後、生育期に着果量を制限し、株元を乾燥させるなどの耕種的防除を行う。

[具体的データ]



図 1 ブドウ（アレキ）の衰弱枯死症状



図 2 枯死根の縦断面



図 3 束状に生じた子実体（キノコ）



図 4 子実体の茎の形状（鰐がない）

[その他]

試験研究課題・事業名：病害虫・生育障害の診断と対策指導

予算区分：県単

研究期間：平成 14 年度

関連情報等：平成 14 年度日本植物病理学会関西部会で講演発表。